

ARTS OF 2015

6.18 - 6.28

9:00 - 18:00

NIMI



～現代縄文アートの世界～
in 新見

まなび広場にいみ 新見文化交流館 小ホール
〒718-0011 岡山県新見市新見 123-2

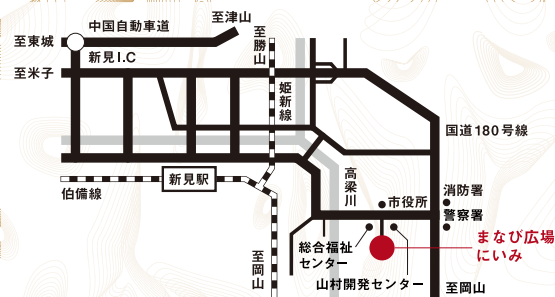
入場無料

ARTIST

猪風来 / we+ (林登志也・安藤北斗) /
大森準平 / 大藪龍二郎 / 片桐仁 /
金理有 / 小林武人 / GOMA /
さかいひろこ / 坂巻善徳 a.k.a.sense /
佐藤和行 / 篠崎裕美子 / 澁谷忠臣 /
高橋昂也 / 竹谷隆之 / 堀江武史 /
丸岡和吾 / 村上原野 / 結城幸司

<岡山県出品アーティスト>

今井毅 / 谷本明久 / 土田哲也 /
むらかみよしこ / 米本久美子



[主催]

新見市・現代縄文アート展実行委員会

[企画制作]

NPO法人 jomonism・猪風来美術館

[お問い合わせ]

猪風来美術館(新見市法曾陶芸館) 電話: 0867-75-2444

猪風来美術館(新見市法曾陶芸館) 開館10周年記念



現代縄文アートが全国から新見へ集結

ARTIST PROFILE

アーティストプロフィール



猪風来
IFURAI

1947年広島県出身。縄文野焼き技法の第一人者。縄文の心を求めて北海道の大自然の中で暮らし縄文の美の根源性に開眼、生命と魂の文様が躍動する野焼き作品を多数創作。近年は穴窯での施釉縄文造形作品や、華麗に舞う渦の彩色縄文文様画など新境地の猪風来縄文スパイラルアートを創作。2005年岡山県新見市に猪風来美術館開館。



大藪龍二郎
RYUJIRO OYABU

小学校の授業で縄文土器を知り、陶土に魅了され陶芸家を志す。1993年に、野生動物写真家、久保敬親氏のアシスタントとしてアラスカを2ヶ月間にわたり取材旅行。写真家星野道夫氏とも出会い、野生動物の持つ力と地球の織り成す自然に感銘を受ける。土と炎を使い「自然界の不思議な力」をモチーフに「真の美とは何か？」を模索しながら制作している。



小林武人
TAKETO KOBAYASHI

<http://vimeo.com/user7375530/videos>

CGという最新の道具を使いながら、その作品は縄文精神に基づいて制作される。新しい技術により、縄文人が描き出せなかったであろう文様を乱舞させ、太古と未来を繋ぐ大きな円環を創造する。



坂巻善徳 A.K.A.SENCE
YOSHINORI SAKAMAKI

<http://www.sensepeace.me>

即興的に「カタチ」を増殖させていく描法で、瞬間に画面に有機的とも機械的ともいえる造形を出現させる。生命力に溢れた形は一期一会で変化する。



澁谷忠臣
TADAOMI SHIBUYA

<http://www.tadaomishibuya.blogspot.jp>

直線的に再構築する世界観を持つアーティスト/イラストレーター。その独自のスタイルで世界中の企業とのコラボレーション、クライアントワークを行っている。またhpgr Gallery Tokyoやバリの個展をはじめ、ロンドン、NY、LAなどで数々の展示に参加。表現の場は国内外、ジャンルを問わず多岐に渡る。



堀江武史
TAKESHI HORIE

修復家。考古学の文献を参考にした作品づくりも行う。「縄文の魅力の世界につなごう～私の考える縄文遺物と現代美術の協同～」等で自作品を用いて縄文遺物を紹介。2002年に企画した三内丸山遺跡での一般向け「土偶のレプリカづくり」は11年間続いている。「縄文文化の伝え方」が終生のテーマ。



結城幸司
KOJI YUKI

版画家、ミュージシャン。アイヌ民族の運動家としても活動。アイヌの音楽と舞踏、手仕事などを伝える「アイヌ・アートプロジェクト」を2000年に設立。全国でライブやワークショップなどの活動を行っている。2008年には世界12カ国22民族による「先住民族サミット」のアイヌモシリ2008事務局長を務めた。



WE+ 林登志也
TOSHIYA HAYASHI
安藤北斗
HOKUTO ANDO

<http://www.weplus.jp>

グラフィック、プロダクト、広告、インタラクティブ、技術開発等、フィールドを限定せずさまざまな活動を展開するクリエイティブスタジオ。プロダクトそのものに時間や場所の意味づけを与えるプロジェクトを得意とする。



片桐仁
JIN KATAGIRI

1973年、埼玉県出身。ラーメンズとしての活動以外に舞台・ドラマ等に出演。NHK教育『ジャッキーン!』TBSラジオ『エレクトロニック』にレギュラー出演中。また、粘土作品集『ジーンディー・ジョーンズ 感涙の秘宝 粘土道2』が講談社より発売中。



GOMA

オーストラリア先住民族の管楽器ディジュリドゥの奏者・画家。2009年に交通事故で高次脳機能障害となり、事故後まもなく突然緻密な点描画を描き始める。2012年には自身を主人公とする映画「フラッシュバックメモリーズ3D」が公開。



佐藤和行
KAZUYUKI SATO

1950年新潟県生まれ。創作作家。2000年、新潟県立博物館縄文館レリーフ“縄文のプロローグ”制作。2009年、長岡市大積折渡町に「ギャラリー飛蟲舎」開設。2012年、越後津南町「縄文とつとつ展」プロデュース。縄文をテーマとした木彫・絵画を制作している。



高橋昂也
KOYA TAKAHASHI

<http://www.takahashi-koya.com>

1985年愛知県生まれ。映像作家。緻密な描画と独自の技法で映像を制作し、TV、ゲーム、舞台、文化施設等で活動。民俗、宗教、自然科学のもつ神話性、また日本土着の世界認識を基盤とした表現を試み、自主的な制作活動も行う。



丸岡和吾
KAZUMICHI MARUOKA

<http://www.kazumichimaruoka.com>

髑髏や骨に特化した造形作家。その活動範囲は焼物からファッションまで多岐に渡る。焼物の制作年数は長くないものの、その造形力を遺憾なく発揮した茶道具などは既に引く手数多。



大森準平
JUMPEI OMORI

<http://www.megumiogita.com/cn4/pg119.html>

アニミズムを感じさせる抽象的な黒陶の彫刻から記号的に縄文土器を扱ったポップなシリーズまで幅広く展開する。既にNYの美術館に作品が所蔵されるなど海外での評価も高い。



金理有
RIYOO KIM

<http://www.riyookim.com>

焼物を学び始めてから古代の遺物に興味を持ち、未来も古代も想像力の世界であるという着想を得てその双方を感じさせる作風に至る。刺青やクラブミュージックなどの現代文化を「土着」と仮定し、原始文化や宗教との関連性を考察しながら表現へと昇華する。



さかいひろこ
HIROKO SAKAI

縄文まんが家。1996年『縄文まほろぼ博』にて縄文まんが家としてデビュー。以降、三内丸山遺跡をはじめ各地の埋蔵文化財センターや博物館で遺跡と市民をつなぐイラスト展やワークショップを行なっている。縄文遺跡のコンシェルジュ。



篠崎裕美子
YUMIKO SHINOZAKI

ビートニック文化の視覚表現に影響を受け、セラミックに原色を使った装飾を施す呪術的な造形が特徴。リズムを刻むような点描と縞(しのぎ)は縄文の造形に通じるものがある。



竹谷隆之
TAKAYUKI TAKEYA

1963年北海道出身。映像、ゲーム関連ではキャラクターやプロップのデザイン、アレンジ、造形を手掛け、トイ、ガレージキット関連では企画、原型制作、造形監修を手掛ける。2012年の『館長庵野秀明 特撮博物館』で上映された「巨神兵」のコンセプトモデルも話題に。



村上原野
GENYA MURAKAMI

1987年北海道生まれ。陶芸家。猪風来に師事し、縄文土器・土偶の徹底的な模写を通して、宇宙と自然の波動、生と死と再生への畏怖、祈りの世界観が表現された縄文造形と縄文野焼きの心技を体得する。「現代に生きる己の縄文の感性」を独自の縄文造形に込め、躍動感あふれる土器やオブジェを創作する。

<岡山県出品アーティスト>

今井毅 TSUYOSHI IMAI
縄文土器作家

谷本明久 AKIHISA TANIMOTO
画家

土田哲也 TETSUYA TSUCHIDA
縄文土器作家

むらかみよしこ YOSHIKO MURAKAMI
染織作家

米本久美子 KUMIKO YONEMOTO
画家・イラストレーター

LIVE PAINT

ライブペイント

縄文アーティスト3人による絵画公開制作

(坂巻善徳・澁谷忠臣・さかいひろこ)

【日程】6月16日【火】/ 17日【水】

WORKSHOP

ワークショップ



黒曜石のアクセサリーづくり

【講師】 草刈朋子
【日程】 6月20日【土】/ 21日【日】
【人数】 先着20名【各日】
【参加費】 300円



縄文土鈴をつくろう!

【講師】 村上原野
【日程】 6月20日【土】/ 21日【日】
【人数】 先着20名【各日】
【参加費】 300円